■ 国指定文化財

1 木造薬師如来坐像及び両脇侍立像　3躯

月光菩薩立像

木造薬師如来坐像

日光菩薩立像

指　定　国指定重要文化財　大正５年（1916）８月17日
所在地　佐川 川内ケ谷 大乗院
年　代　鎌倉時代
像　高　木造薬師如来坐像（86.5センチ）
日光菩薩立像（105.2センチ）
月光菩薩立像（105.8センチ）

大乗院

いずれの像もヒノキ材、寄木造、玉眼の漆箔像で、内刳りを施す。

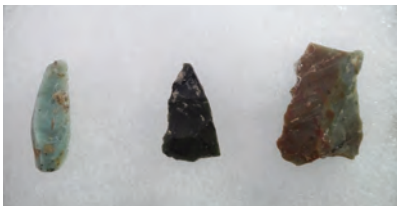
薬師如来は、肉髻を半円形につくり、肉髻珠を嵌入し、螺髪は切付螺髪で、両耳朶に貫孔を穿ち、大きめの白毫を嵌入した端正な面相を刻み、三道を明確に表す。衲衣を偏袒右肩につけ、右手をまげて前方に上げて掌を前にして五指をのばし、左手はまげて膝上に薬壺をとり、左足を上にして結跏趺坐する。

日光菩薩は、宝髻を高く結い、天冠台を刻出し花形飾りをつけ、毛筋を丁寧に刻み、両耳朶に貫孔を穿ち、巻毛が両耳朶を横切る。白毫を嵌入した端正な面相を表し、三道を刻む。天衣、条帛、裳をつけ、右手を垂下して軽くまげて掌を前にし、左手はまげて胸脇に上げて第一指と第三指を捻じ、第二指はのばし、第四、第五指は軽くまげ、両手で蓮華の茎をとり、腰を少し左に捻って立つ。

月光菩薩は腰を右に捻り、両手は日光菩薩と逆にして、左右相称の姿態とする。

（現在は非公開）

2 不動ガ岩屋洞窟



剥片

尖頭器

指　定　国指定史跡　昭和 53 年（1978）12 月 19 日

所在地　尾川 尾川西山 聖嶽

年　代　縄文時代草創期～早期

遺跡のある洞窟は、秩父累帯中・南帯に分布する「鳥の巣石灰岩」に形成された鍾乳洞で、標高 250 メートルほどの聖嶽中腹にある。谷からの比高は 40 メートル、南に開口した洞窟は二洞に分かれる。第一洞は、幅 4 メートル、高さ 6 メートル、奥行 8 メートル。第二洞は、第一洞側壁に開口し、幅 4 メートル、高さ 2 メートル、奥行 8 メートルの支洞である。

昭和 39 年（1964）と 42 年（1967）に 2 度発掘調査されており、細隆起線文土器（不動ガ岩屋Ⅰ式土器）、押型文土器（不動ガ岩屋Ⅱ式土器）、厚手無文土器などや有舌尖頭器、尖頭器、石鏃、掻器、剥片石器、石斧、石錘、矢柄研磨器、骨角器、貝製品、獣骨、小児の頭蓋骨の一部などが発見されている。

洞内には古くから不動尊像が祀られていることから不動ガ岩屋と呼ばれている。

3 竹村家住宅（たけむらけじゅうたく） 3棟

指　定　国指定重要文化財　平成19年（2007）12月4日
所在地　佐川東町（ひがしまち）
年　代　江戸時代

竹村家は寛文年間（1661～1673）に高岡村（現土佐市）より初代竹村務平が来住、享保年間（1716～1736）より酒甫手（さかぼて）（酒造権）を借り受け酒造業を開始した家系で、寛保元年（1741）に酒甫手を得て名実共に酒造家として独立した。その後、家業は順調に推移し、深尾氏に謁見（えっけん）が許される御目見町人（おめみえちょうにん）、さらに名字帯刀も許され、明和7年（1770）に「黒金屋（くろがねや）」の屋号を深尾家より賜る。竹村家は江戸中期以降、幕府巡見使宿を務め、江戸後期には深尾家に多額の資金調達をするなど、佐川屈指の商家であった。

現在の建物は店舗部が安永9年（1780）、主屋・座敷部は天保9年（1838）に改築されている。表門と塀も同時期のものである。竹村家住宅は武家住宅に準ずる書院造の上質な座敷を構え、土佐における有力商人の住宅として貴重である。

東の店舗部は巨大な梁や桁を組み合わせた吹き抜けの土間である。正面の大黒柱は320ミリ角、高根継ぎの構造で、上部は松材、下部は杉材を使用し、木材の質感を際立たせた力強い空間を造りだしている。この土間で往時には酒の小売りや荷造りを行っていた。大黒柱左側の部屋は帳場で、事務所機能を備えていた。

■ 高知県指定文化財

1 サカワヤスデゴケ

Frullania sackawana Steph.

写真：佐川町岡崎聖岩アカマツ基部 1946 年 12 月　採集：上村登

指　定　県指定天然記念物　昭和 23 年（1948）4 月 9 日
所在地　佐川 岡崎（おかざき）
分　類　苔類（たいるい） ヤスデゴケ科

本種は、明治 30 年（1897）に吉永虎馬により佐川町聖（ひじり）神社境内にある通称「聖岩（ひじりいわ）」と呼ばれるチャートの露岩北面で採集され、Stephani（1897）によって新種として記載された。

現在の聖岩は、周辺のアカマツが枯死し、さらに北側の雑木が伐採されてしまい日陰が失われている。このため、聖岩周辺からは絶滅したものと考えられる。

本種は日本と中国、ラオス、タイから知られ、日本では埼玉県以西の本州と四国に分布する。環境省（2015）によると「生育が良好な産地もあるが、産地が少なく、近年では確認できなくなった産地もあり、生育地が減少していくおそれがある」とされている。

今回の調査でも本種の生育を確認することはできなかった。（平成 29 年 12 月現在）

「絶滅危惧Ⅱ類」環境省　　「絶滅」愛知県

「準絶滅危惧」三重県　　「情報不足」埼玉県

2 青源寺庭園

主石と庭園

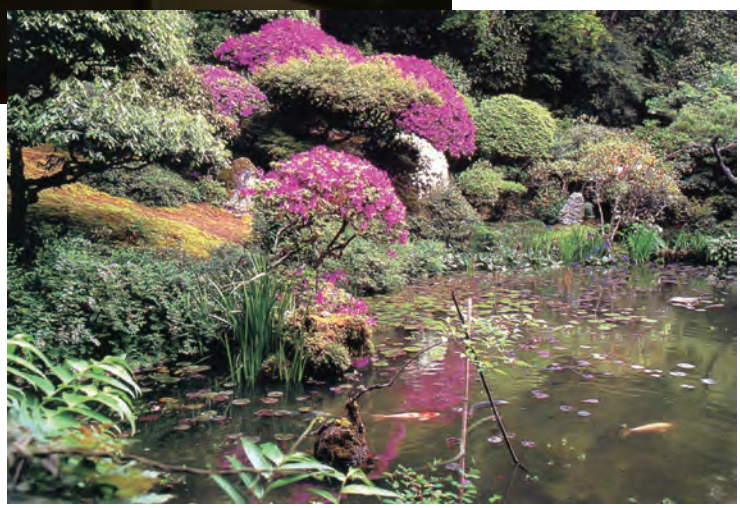
指　定　県指定名勝　昭和 31 年（1956）2 月 7 日
所在地　佐川 西町 青源寺
年　代　江戸時代初期

龍淵山青源寺と称し、臨済宗妙心寺派の寺院である。

慶長 8 年（1603）土佐藩主山内一豊に招かれ遠州掛川から入国した丈林和尚を開山とし、佐川領主深尾家の菩提寺として創建された。享保 13 年（1728）の大火で山門を残し建物はことごとく焼失、現在の庫裏は同 16 年（1731）、本堂は明和 3 年（1766）、観音堂は文化 12 年（1815）に再建されたものである。築庭の時期については、寺歴等から今日では創建時（江戸初期）と考えられている。書院正面の岩壁がこの庭の主題とされていて、山側南端の空滝石組みから池への景観とで構成された枯淡な庭園である。池は築庭後一部縮小されており、二つの池の庭とみられているが、北側の池は昭和初期に新しく造られたものである。

昭和 10 年（1935）に文部省の指定名勝、昭和 31 年（1956）より高知県指定名勝に移行している。土佐三名園の一つである。

3 乗台寺庭園



指　定　県指定名勝　昭和 31 年（1956）2 月 7 日
所在地　佐川 松崎 乗台寺
年　代　江戸時代初期

吉祥山無量寿院乗台寺と称し、真言宗智山派京都智積院末である。

寺歴は古く天慶年間（938 ～ 947）に開創されたと伝わっている。南北朝時代には佐川郷領主惟宗師信、戦国時代には久武内蔵助親直の菩提寺である。江戸時代（1603 ～ 1868）には深尾家の祈願寺と定められた。

築庭の時期については、深尾家 2 代重昌の奥方が病気の時、平癒祈願をなして効験があり、全快の御礼として築かれたものと伝えられている。庭園内の樹種の多さ、樹木と樹木が織りなす空間の美等、巧みに自然を取り入れていて奥深く見飽きない。一番の見頃は晩秋である。

昭和 11 年（1936）に文部省の指定名勝、昭和 31 年（1956）より高知県指定名勝に移行している。土佐三名園の一つである。

4 佐川の大樟（さかわのおおくす） 1株

諏訪神社

指　定	県指定天然記念物　昭和31年（1956）2月7日
所在地	佐川 荷稲（かいな） 諏訪（すわ）神社
祭　神	建美名方神（たけみなかたのかみ）
分　類	クスノキ科 クスノキ属
大きさ	根元周り約13㍍　目通幹周り約7.8㍍　樹高約30㍍
樹　齢	約800年

地上約10メートルの箇所で三つの大枝に分かれ、樹勢は旺盛である。

過去の台風の影響で大枝が折損落下し、社殿の屋根を破損した。近い将来同様の事故で近所の民家に危険が及ぶことも考慮し、一部の枝を切断しているが、樹形全体には大きな影響がなく往時の面影をとどめている。

諏訪神社は信州諏訪大社より鎌倉時代末期に勧請と推定され「諏訪大名神」と称される。

この大樟は本殿の脇にそびえ、JR西佐川駅方面からの眺めは素晴らしい。